

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科				
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ					授業形態			
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	遠藤 晃								
授業概要	<p>専門ゼミⅠで習得したフィールドワークによる調査・研究手法をもとにして4年次に取り組む卒業研究において、必要となるテーマに関する基礎的文献を各自紹介する。論文から専門知識を深めるとともに、論文の構成、統計的手法についても習得することを目指す。</p>								
関連する科目	子ども教育専門ゼミⅠ、入門ゼミ、プレゼミ、卒業研究								
授業の進め方 と方法	テーマに沿ったレジメを担当者が準備し、プレゼンをして、全員で議論をする。								
授業計画 【第1回】									
授業計画 【第2回】									
授業計画 【第3回】									
授業計画 【第4回】									
授業計画 【第5回】									
授業計画 【第6回】									
授業計画 【第7回】									
授業計画 【第8回】									
授業計画 【第9回】									
授業計画 【第10回】									
授業計画 【第11回】									

授業計画 【第12回】	
授業計画 【第13回】	
授業計画 【第14回】	
授業計画 【第15回】	
授業の到達目標	専門ゼミ I で習得したような研究の基盤となる力をさらに向上させていくのはもちろんのこと、レポート作成やグループディスカッションを通して、プレゼンテーション能力向上やクリティカルな思考を高め、専門的知識を深めていくことを目指す。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	
授業時間外の学修 【復習】	
課題に対する フィードバック	課題については、ゼミの中で解説する。
評価方法・基準	討論や文献・情報収集への取り組み姿勢・態度およびレポートや報告の内容等で評価する。
テキスト	とくに定めず、必要に応じて資料を配布する。
参考書	
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科	
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ						授業形態		
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員			アクティブ ラーニング
担当教員名	瀬戸口 裕二								
授業概要	<p>専門ゼミⅡで、検討を行ってきた各自の研究テーマについて、まずは、テーマ発表と質疑応答、先行研究のデータ収集と分析を行う。</p> <p>データの収集や分析の仕方等については、ゼミでの討論を生かし自身の研究に活かしていく。</p> <p>卒論の検証に、保育や教育現場での事例等を用いる場合には、アセスメントや評価の方法については、ゼミにて発表し共有をはかる。</p> <p>仮説・検証をすすめるに際しては、量的な研究方法を取り入れ根拠を明確にするため、データ収集の方法や統計的な処理も学んでいく。</p>								
関連する科目									
授業の進め方と方法	グループで発表したり協議したりすることで、他の進捗を確認したり、自らの研究の進捗を見通したりすることで、確実な研究活動の進捗を図ることができる。								
授業計画【第1回】	テーマの発表と質疑応答（1）								
授業計画【第2回】	テーマの発表と質疑応答（2）								
授業計画【第3回】	研究テーマに関する文献検索								
授業計画【第4回】	文献研究による成果の発表								
授業計画【第5回】	研究仮説の検討（1）								
授業計画【第6回】	研究仮説の検討（2）								
授業計画【第7回】	事例や文献の引用も含め、検証までの展開の検討（1）								
授業計画【第8回】	事例や文献の引用も含め、検証までの展開の検討（2）								
授業計画【第9回】	中間発表と質疑応答（1）								
授業計画【第10回】	中間発表と質疑応答（2）								
授業計画【第11回】	中間発表と質疑応答（3）								

授業計画 【第12回】	論文作成のための個別指導（1）
授業計画 【第13回】	論文作成のための個別指導（2）
授業計画 【第14回】	論文作成のための個別指導（3）
授業計画 【第15回】	卒業論文発表会の参観
授業の到達目標	
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)
授業時間外の学修 【予習】	毎回の授業でグループディスカッションや発表などの多様な授業形態を展開します。そのためには、授業以前の準備が求められます（30分程度）。
授業時間外の学修 【復習】	前時の学習のポイントについて、参考書やインターネット情報等を活用して再確認したり、検索された情報を下にして自らの学習を拡大したりする（30分程度）。
課題に対する フィードバック	必要に応じて出された課題については、次時には必ず発表機会を確保し、解説も合わせて行う。
評価方法・基準	卒業論文の課題を明確に把握できる。 卒業研究の手続きを正しく見通すことができる。 卒業研究のスケジュールを立て、実施計画が明らかとなっている。
テキスト	
参考書	
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科	
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ						授業形態		
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	園田 博一								
授業概要	<p>専門ゼミⅠの研究の方向性を再検討し、確認をしながら最終的な具体的な取り組み内容を吟味する。課題研究テーマを探っていく。これまでの取り組みを重視し、さらなる分析、考察をしていく。個々の実践課題と、制作研究を進めていく。ゼミ活動の集大成としての課題を共有し、資料を整理し、制作研究と研究論文を作成する。</p>								
関連する科目	教科教育法（図画工作）、保育内容指導法（造形表現）、図画工作演習、子どもと手作り遊び								
授業の進め方 と方法	<p>研究の目的や方法について考えを進め、文献研究による理論的研究を学習していく。子どもの発達段階と造形表現とをいろいろな角度から検討していく。卒業研究に向けた各自のテーマを深堀する。文献研究、資料収集を行い、ものづくりの背景や意味や歴史も研究の対象とする。</p>								
授業計画 【第1回】	ゼミ活動と個人研究計画の確認、テーマの確認。（1）								
授業計画 【第2回】	ゼミ活動と個人研究計画の確認、テーマの確認。（2）								
授業計画 【第3回】	研究構想に沿って研究を推進する。個別指導（1）								
授業計画 【第4回】	研究構想に沿って研究を推進する。個別指導（2）								
授業計画 【第5回】	研究構想に沿って研究を推進する。個別指導（3）								
授業計画 【第6回】	研究構想に沿って研究を推進する。個別指導（4）								
授業計画 【第7回】	個人研究のまとめとゼミ内での報告・討論（1）								
授業計画 【第8回】	個人研究のまとめとゼミ内での報告・討論（2）								
授業計画 【第9回】	研究報告書の作成計画、制作（1）								
授業計画 【第10回】	研究報告書の作成計画、制作（2）								
授業計画 【第11回】	ゼミ研究発表準備（1）								

授業計画 【第12回】	ゼミ研究発表準備（2）
授業計画 【第13回】	ゼミ研究発表（1）
授業計画 【第14回】	ゼミ研究発表（2）
授業計画 【第15回】	ゼミ活動（専門ゼミⅡ）の総括
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究に対する積極性があり、主体的に参加する。 ・ 課題を発表、討論することで学習を共有する。 ・ 卒業研究に向けての研究構想を具体的に作成し、計画を推し進める。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外の学修 【予習】	既習の内容を総動員し取り組む。
授業時間外の学修 【復習】	卒業研究と連結し総合的に取り組むことができるようにする。
課題に対する フィードバック	専門性や社会性、客観性を注視し、助言を行う。
評価方法・基準	参加の姿勢、ゼミ構成員であることの意識、課題の成果により総合的に判断する。
テキスト	自分の研究分野を掘り下げるためのテキストを収集する。
参考書	参考文献、引用文献資料等、適宜紹介しながら研究推進する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科	
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ						授業形態	演習	
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	早川 純子								
授業概要	<p>この演習では、これまでのゼミで習得した研究手法をもとに、子ども教育専門ゼミIで扱ったテーマについて、より専門的な文献、より具体的な調査と分析によって研究を深めることを目的とする。</p> <p>各自、一つの研究プロセスの中で個々の考察をまとめ、発表報告し、その際のディスカッションを通じて研究内容を吟味していく。卒業研究につながるように、テーマ・問題設定・先行論文調査・学問的意義・章構成・各章の内容などの研究計画を綿密に構成していく。</p> <p>また、積極的・主体的な地域交流を体験し、地域の課題解決や活性化に貢献する意識と態度を養う。</p>								
関連する科目	1年次に「子ども教育入門ゼミ」、2年次に「子ども教育プレゼミ」、また3年次には「子ども教育ゼミⅠ」を履修しておくこと。								
授業の進め方 と方法	各回のテーマに関する課題の評価及び指導を「演習形式」で行う。 毎回、課題の提示・発表・提出を行い、参加者全員でのディスカッションを行う。 適宜、学科主催の音楽会「うたごえ広場」に参加し、運営を通して地域交流を行う。								
授業計画 【第1回】	年間研究フロー発表								
授業計画 【第2回】	先行文献レビュー①								
授業計画 【第3回】	地域交流（「うたごえ広場」運営）①								
授業計画 【第4回】	先行文献レビュー②								
授業計画 【第5回】	地域交流（「うたごえ広場」運営）②								
授業計画 【第6回】	実地調査計画案発表								
授業計画 【第7回】	地域交流（「うたごえ広場」運営）③								
授業計画 【第8回】	卒業研究中間発表準備								
授業計画 【第9回】	卒業研究中間発表								
授業計画 【第10回】	実地調査あるいは研究実践①								
授業計画 【第11回】	地域交流（「うたごえ広場」運営）④								

授業計画【第12回】	実地調査あるいは研究実践②
授業計画【第13回】	地域交流（「うたごえ広場」運営）⑤
授業計画【第14回】	卒業研究審査会準備
授業計画【第15回】	卒業研究審査会
授業の到達目標	専門ゼミ I で習得したような研究の基盤となる力をさらに向上させていくのはもちろんのこと、レポート作成やグループディスカッションを通して、プレゼンテーション能力向上やクリティカルな思考を高め、専門的知識を深めていくことを目指す。
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修【予習】	発表の際は、レジュメの作成に加え質疑応答に対応するため、各章を熟読玩味して臨まなければならない。十分余裕を持って準備すること。
授業時間外の学修【復習】	
課題に対するフィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	参加態度：60%、発表：40%
テキスト	レビューする先行文献は各自で準備する。
参考書	随時提示する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	子ども教育学科				
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ						授業形態		
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	宮内 孝								
授業概要	この授業は、研究に関する手法を身につけるとともに、プレゼンテーション能力の向上やクリティカル思考の習得を目指していくなかで課題探究能力の向上をはかるとともに円滑に卒業研究に取り組めるようにします。 子どもの運動に関する課題について、文献や資料を収集してまとめたり、実践をしたりして、その結果を発表・討論を行います。授業者は、小学校教諭として体育授業に取り組んできました。この実践を通して得た知見を、学生が設定する子どもの運動に関する課題解決指導に活用して、本授業の学修が深められるようにします。								
関連する科目	子ども教育専門ゼミⅠ								
授業の進め方 と方法	テーマにそって、討論をしたり実技をしたりしながら、主体的に課題解決に取り組むようにします。また、チャレンジ運動教室での指導計画・実践・振り返りと関連付けながら、授業を行います。								
授業計画 【第1回】	1. 運動指導実践例 器械運動 すぐれた運動指導の先行実践を取り上げて、その実践の理論的背景や指導法のよさについて分析をしながら、運動指導のポイントを考えて発表します。								
授業計画 【第2回】	2. 運動指導実践例 ボール運動 すぐれた運動指導の先行実践を取り上げて、その実践の理論的背景や指導法のよさについて分析をしながら、運動指導のポイントを考えて発表します。								
授業計画 【第3回】	3. 運動指導実践例 陸上運動 すぐれた運動指導の先行実践を取り上げて、その実践の理論的背景や指導法のよさについて分析をしながら、運動指導のポイントを考えて発表します。								
授業計画 【第4回】	4. 運動指導実践例 からだ作り運動・水泳 すぐれた運動指導の先行実践を取り上げて、その実践の理論的背景や指導法のよさについて分析をしながら、運動指導のポイントを考えて発表します。								
授業計画 【第5回】	5. 運動指導実践計画 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。								
授業計画 【第6回】	6. 運動指導実践の振り返り 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。								
授業計画 【第7回】	7. 運動指導実践計画 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。								
授業計画 【第8回】	8. 運動指導実践の振り返り 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。								
授業計画 【第9回】	9. 運動指導実践上の課題解決 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。								
授業計画 【第10回】	10. 運動指導実践計画 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。								
授業計画 【第11回】	11. 運動指導実践の振り返り 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。								

授業計画 【第12回】	12. 運動指導実践計画 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。
授業計画 【第13回】	13. 運動指導実践の振り返り 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。
授業計画 【第14回】	14. 運動指導実践上の課題 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。
授業計画 【第15回】	15. 子どもの動きのつまずきと運動指導実践 運動指導の実践計画を検討し実際に子どもに実践します。その実践の振り返りを通して、運動指導のあり方を考えて発表します。
授業の到達目標	1. 専門ゼミ I で習得した研究の基盤となる力をさらに向上させながら、レポート作成やグループディスカッションができる。 2. クリティカルな思考を高め、専門的知識を身に付ける。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)/2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)/2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外の学修 【予習】	各自のゼミ研究に取り組むための文献・先行実践についてレジュメ・発表のためのプレゼンを作成する。
授業時間外の学修 【復習】	授業後は、自己の学びをレポートにまとめる。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行います。
評価方法・基準	レジュメ 30点 レポート30点 プレゼンテーション 40点
テキスト	必要に応じて配布します。
参考書	金子明友 「教師のための運動学」 大修館書店2003 (2000円+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ						授業形態	演習	
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	若宮 邦彦								
授業概要	<p>この授業の目的は、現代の社会における子どもや家族が抱える問題や課題、児童福祉の様々な援助に関する文献を学生自身が収集し、内容を理解し、発表・討論を行うことを目的とします。子どもの成長や発達を援助していくためには、子ども自身を理解するのみではなく、家庭環境や地域社会について理解しておくことが重要となります。専門ゼミⅠで学んだことを発展させ、学生自身が児童福祉の現状や課題についてより深く考えること、また社会福祉学の観点から研究方法について理解し、研究の実施・まとめ方・発表の方法について学ぶことにより課題探求能力を高めます。</p>								
関連する科目	社会福祉、社会的養護Ⅰ、子育て支援を履修しておくことが望ましい。								
授業の進め方 と方法	<p>アクティブラーニング型授業を展開する。テキストのみでなくレジュメを作成・配布して演習を行う。学生自身が専門ゼミⅠで学んだ問題意識や課題とするテーマについて、より深く考察するための探究能力を高めます。【知識・理論の修得】また、ソーシャルワーク理論とスキルの学びを深めるために事例検討やフィールドワークを通じ、理論知を実践知に関連付けながら理解します。【姿勢・志向性の育成】さらに卒業研究のためのテーマ設定、研究方法の明確化につなげていきます。【自己管理能力・生涯学習力】</p>								
授業計画 【第1回】	1. オリエンテーション。 専門ゼミで学ぶ意義、卒業論文執筆に向けての準備をする。								
授業計画 【第2回】	2. 各自の問題関心の所在、背景の確認。 専門ゼミⅠで学んできた研究の視座をモニタリングし、現在の問題意識を整理する。								
授業計画 【第3回】	3. 各自の問題関心に基づいたテーマの設定 各自の問題意識を研究の視座へと発展させ、卒業研究のテーマ設定をする。								
授業計画 【第4回】	4. 文献・先行研究の収集。 研究方法、アカデミックスキルのモニタリングをしながら先行研究を収集する。								
授業計画 【第5回】	5. 文献・先行研究の整理 設定したテーマに関連する論文・著書・法制度に関連する資料を収集し総論と各論の整理する。								
授業計画 【第6回】	6. 各自の問題意識に基づいた先行研究・文献の報告と質疑応答① プレゼンテーションを行い、メンバー間での質疑応答を行う。								
授業計画 【第7回】	7. 各自の問題意識に基づいた先行研究・文献の報告と質疑応答② テーマに応じてフィールドワークを行い、研究方法も決める。								
授業計画 【第8回】	8. 各自の問題意識に基づいた文献の報告と質疑応答③ 抄録の作成、研究の背景、目的等を章立てを通じて全体像を整理する。								
授業計画 【第9回】	9. ふりかえりと中間報告 先行研究をレビューしたものをレポートにし中間発表会でプレゼンテーションをする。 質疑応答やディスカッションをし学びを深める。								
授業計画 【第10回】	10. 研究課題の絞り込み フィールドワークの総括・研究課題の絞り込みをする。								
授業計画 【第11回】	11. 研究計画発表 各論の各論の整理とともに研究課題を明確にし、今後の文献研究やフィールドワークの計画を立案します。さらに個別の研究テーマに応じた研究方法の整理、具体的展開を学ぶ。								

授業計画 【第12回】	12. 個別研究指導① 研究の背景、目的、方法、考察について整理をする。さらに調査研究のデータ分析・整理をする。
授業計画 【第13回】	13. 個別研究指導② 個別の研究テーマに応じたレポートの書き方、調査データの分析、プレゼンテーションの方法等を学ぶ。
授業計画 【第14回】	14. 報告会① 卒業審査会においてプレゼンテーションをする。研究内容を抄録とパワーポイントデータにまとめプレゼンテーションを行い質疑応答により内容を深める。
授業計画 【第15回】	15. 報告会② 卒業研究審査会における質疑、副査からの指導・助言に基づき加筆修正を行う。
授業の到達目標	1. 子ども教育専門ゼミIで深めた問題意識を学術的に整理し、理論的思考力を高める。【知識・理論の修得】 2. ボランティアやフィールドワーク等での体験知を深め、研究の基礎へと結びつけるための討論や発表能力を習得する。【姿勢・志向性の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	各ゼミ生が研究したいテーマに関する文献やデータを収集し、卒業研究のためのレポートを発表し、討論を行い、専門的知識を深め、論文の書き方や、研究方法について学ぶ。ディスカッションに必要なテーマの整理・資料作成。約40分
授業時間外の学修 【復習】	配布資料、課題についての復習、各メンバーとのディスカッション(サブ・ゼミ)を40分程度行うことを必須とする。
課題に対する フィードバック	レポート、プレゼンテーションは評価後、返却及び解説をする。
評価方法・基準	以下の項目に基づき評価する。 学習意欲70点、レポート提出20点、ワークショップ等10点
テキスト	なし
参考書	『よくわかる卒論の書き方』第2版 白井利明・高橋一郎編著 ミネルヴァ書房
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科	
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ						授業形態		
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング
担当教員名	本田 和也								
授業概要	<p>本授業は、特別支援教育・保育を専門的に研究していくための発展的な力を養うことを目的とする。 文献や資料の収集や整理などを通して、情報活用方法を学んだ上、十分に活用する力を養う。 学生自ら設定した研究テーマに沿い、調査および研究を進めることで探求する力を養い、まとめる力を育む。</p>								
関連する科目	事前に、子ども教育専門ゼミⅠを履修しておくこと								
授業の進め方 と方法	基本的に、各自でまとめた論文に対し、質疑応答をする形式ですすめる。								
授業計画 【第1回】	オリエンテーション（今後の研究のやり方についての確認等）								
授業計画 【第2回】	研究の経過報告及び質疑応答①								
授業計画 【第3回】	研究の経過報告及び質疑応答②								
授業計画 【第4回】	研究の経過報告及び質疑応答③								
授業計画 【第5回】	研究の経過報告及び質疑応答④								
授業計画 【第6回】	研究の経過報告及び質疑応答⑤								
授業計画 【第7回】	研究の経過報告及び質疑応答⑥								
授業計画 【第8回】	中間発表①								
授業計画 【第9回】	中間発表②								
授業計画 【第10回】	卒業論文の検討①								
授業計画 【第11回】	卒業論文の検討②								

授業計画 【第12回】	卒業論文の検討③
授業計画 【第13回】	ゼミ内卒業論文発表会
授業計画 【第14回】	卒業論文発表会①
授業計画 【第15回】	卒業論文発表会②
授業の到達目標	3年次までに身につけた事実に即して自発的に探究する力を用い、自分で研究を進める力を養う。 研究の成果を卒業論文発表会で発表するプレゼンテーション能力を養う。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	先行研究に関する文献を読み、各自の研究の裏付けを科学的に行う。 各自で、研究方法、内容を考え、計画的に進めていく。
授業時間外の学修 【復習】	ゼミ担当教員やゼミの学生との質疑応答から、各自で研究を深めていく。 計画的に卒業論文の形式を整理し、まとめていく。
課題に対する フィードバック	質疑応答を通して評価・解説を行う。
評価方法・基準	討論や文献・情報収集への取り組みや発表、計画的な研究の進め方、卒業論文のまとめ方、プレゼンテーションのあり方などを総合的に評価する。
テキスト	特になし
参考書	特になし
備考	特別支援学校（知的障害、聴覚障害）において25年間、小学校において3年間、勤務してきた。また、鹿児島県総合教育センター特別支援教育研修課において2年間、研究主事兼指導主事として勤務してきた。

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科	
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ					授業形態		演習	
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	福富 隆志								
授業概要	<p>教育は、学校だけに限らず、家庭や企業などあらゆる場で行われる。したがって、大部分の人は、教職に就くか否かに関わらず、将来的に教育に携わることになる。したがって、教育に関する何らかの問題点を発見し、適切に解決できる知識やスキルは必須だと言える。そこで本ゼミでは、専門ゼミⅠに引き続いて、主に心理学的な観点から、教育に関する何らかの問題を、適切な方法で解決できる知識とスキルを学ぶことをねらいとする。そのために、前半では教育心理学に関する発展的な文献を読み、議論を通して理解を深める。後半では、個人でテーマを立て、問題を設定し、適切な方法を用いて結論を出し、考察をするという一連の研究活動を実践してもらう。</p>								
関連する科目	子ども教育専門ゼミⅠを前年度に、卒業研究を同年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>1回の授業の基本的な構成は以下の通りである。 【前半】発表担当者が文献の内容のまとめと論点を提示し、それらについて全員で議論する。 【後半】個人で一連の研究活動を進め、進捗を報告してフィードバックを受け、次回の活動への見通しを立てる。</p>								
授業計画 【第1回】	第1回：オリエンテーション								
授業計画 【第2回】	第2回：文献発表と議論(1)								
授業計画 【第3回】	第3回：文献発表と議論(2)								
授業計画 【第4回】	第4回：文献発表と議論(3)								
授業計画 【第5回】	第5回：文献発表と議論(4)								
授業計画 【第6回】	第6回：文献発表と議論(5)								
授業計画 【第7回】	第7回：文献発表と議論(6)								
授業計画 【第8回】	第8回：研究テーマの決定								
授業計画 【第9回】	第9回：研究計画の作成(1)：問題と目的								
授業計画 【第10回】	第10回：研究計画の作成(2)：方法								
授業計画 【第11回】	第11回：研究の実施(1)：データの収集								

授業計画【第12回】	第12回：研究の実施(2)：データの分析
授業計画【第13回】	第13回：研究の実施(3)：結果のまとめ
授業計画【第14回】	第14回：研究の実施(4)：考察
授業計画【第15回】	第15回：研究成果の発表
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学に関する文献の内容を、他者にもわかるようにまとめ、発表できる。 2. 教育心理学に関する文献の内容について、実社会と関連した論点を提示できる。 3. 議論を通じて、教育心理学についての理解を深め、実社会との関連を論じられる。 4. 教育に関連する事象について、適切な構成（問題と目的、方法、結果、考察）の研究成果を発表できる。
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)/2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)/2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修【予習】	指定した文献から次回の発表範囲を事前に熟読し、次回の発表内容の概略を把握すると同時に、授業で必要となる資料作成を行うこと(1.5時間)
授業時間外の学修【復習】	授業で学んだ内容を振り返り、要点を整理すること(1時間)、また授業終了時に示す課題に取り組み、必要な資料作成を行ったり、授業中に議論した内容に関して自分なりの考えをまとめておくこと(1.5時間)
課題に対するフィードバック	毎回の提出課題（発表資料など）は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	発表やレポートの質、議論への参加の程度から総合的に判断する。 ①発表、レポート：80% ②議論への参加：20%
テキスト	初回の授業で指示をする。
参考書	必要に応じて図書、資料を紹介する。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ						授業形態	演習	
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	藤本 朋美								
授業概要	<p>この授業の目的は、自身の関心や問題意識から卒業研究テーマを設定し、卒業研究を行うための方法を習得することです。</p> <p>①これまで学んできた専門的知識やボランティア活動等で得た経験をもとに、特に幼児や児童のことばや文字、伝え合うこと等にかかわる研究テーマを設定し、②先行研究の収集・整理と分析、③レジュメ作成、④発表・質疑応答を通して、研究テーマに関する知見を深め、研究方法について学びます。最終的には自身の主張を論文にまとめます。</p>								
関連する科目	<p>事前に「子ども教育専門ゼミⅠ」を受講しておくこと。</p> <p>同時に「卒業研究」を受講すること。</p>								
授業の進め方 と方法	<p>毎回の授業において、演習形式の授業を行います。1回の授業構成は次のとおりです。</p> <p>授業の前半では、各自が、課題に対する自身の考えを資料およびプレゼンテーションにより表現します。</p> <p>【知識・理解の獲得】</p> <p>後半ではグループディスカッション等にて、前半の学びを深め、さらに自身の問題意識とその立場について検討します。</p> <p>【汎用的技能の育成】 【態度・志向性の育成】</p>								
授業計画 【第1回】	「子ども教育専門ゼミⅡ」の目的 本ゼミの目的について確認します。								
授業計画 【第2回】	研究テーマの設定 自身の問題意識とその立場をもとに、資料を徹底して調べ、研究テーマを設定します。								
授業計画 【第3回】	研究計画を立てる ①意見交換 論文完成までの見通しを持ち、計画を立てます。								
授業計画 【第4回】	研究計画を立てる ②再検討 論文完成までの見通しを持ち、計画を立てます。								
授業計画 【第5回】	先行研究の収集・整理・分析 ①概略的知識を得る 論文のテーマを先行研究に位置づけて検討するため、体系的でまとまった情報を収集します。								
授業計画 【第6回】	先行研究の収集・整理・分析 ②文献検索、入手 論文のテーマを先行研究に位置づけて検討するため、体系的でまとまった情報を収集します。								
授業計画 【第7回】	先行研究の収集・整理・分析 ③先行研究における自身のテーマの位置づけ 論文のテーマを先行研究に位置づけて検討するため、体系的でまとまった情報を収集します。								
授業計画 【第8回】	中間報告								
授業計画 【第9回】	研究テーマの再検討 研究テーマと先行研究整理について報告し、ディスカッションを通して、検討します。								
授業計画 【第10回】	研究アウトラインの作成 ①構造の組み立て 構造を組み立てるため、序論の構成要素をもとに主題文を書きます。その後、アウトラインを作成します。								
授業計画 【第11回】	研究アウトラインの作成 ②主題文の作成 構造を組み立てるため、序論の構成要素をもとに主題文を書きます。その後、アウトラインを作成します。								

授業計画 【第12回】	研究アウトラインの作成 ③アウトラインの作成 構造を組み立てるため、序論の構成要素をもとに主題文を書きます。その後、アウトラインを作成します。
授業計画 【第13回】	研究アウトラインの作成 ④題名（仮）の設定 構造を組み立てるため、序論の構成要素をもとに主題文を書きます。その後、アウトラインを作成します。
授業計画 【第14回】	最終報告 1：意見交換 ディスカッションを通し、自身の研究テーマの論点を再整理します。
授業計画 【第15回】	最終報告 2：まとめ ディスカッションを通し、自身の研究テーマの論点を再整理します。
授業の到達目標	1. 先行研究の収集とその整理の方法について理解することができる。 2. 研究テーマを設定し、論文執筆のためのアウトラインを立てることができる。 3. レジюме作成、発表と討論の方法について理解することができる。 【知識・技能の育成】 4. 先行研究の収集と整理、調査と分析、レジюме作成、発表及び討論を通し、卒業研究の手法を習得することができる。 【汎用的技能の育成】 【態度・志向性の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	課題に取り組むにあたって、自身の興味・関心や問題意識に関する情報や資料等を収集しまとめるようにしてください。
授業時間外の学修 【復習】	授業後には、意見交換や自身の学びを振り返り、論点を整理してください。
課題に対する フィードバック	毎回のレジюмеについては、授業時にコメントします。最終レポートについては、評価後、返却し解説します。
評価方法・基準	毎回の発表資料 50点 学習への意欲的な取り組み（発表・討論への参加状況等）50点
テキスト	井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第2版』慶応義塾大学出版会、2013年。（1,200円＋税）
参考書	必要に応じて図書、資料を紹介します。
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ						授業形態	講義	
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	野村 宗嗣								
授業概要	<p>専門ゼミⅡで、研究の方法等も含めて検討を行ってきた各自の研究テーマについて、まずは、テーマ発表と質疑応答、先行研究のデータ収集と分析を行う。データの収集や分析の仕方等については、ゼミでの討論等で得たものを、自身の研究に活かしていく。</p>								
関連する科目	専門ゼミⅠ								
授業の進め方 と方法	<p>個々ゼミ学生のテーマ設定に基づき、アセスメントや評価の方法といったものを、ゼミにて発表し、ディスカッションを行い、アセスメント力の向上や評価方法の検討、ゼミ生間の共通理解をはかる。仮説・検証といった手順をすすめるに際しては、根拠というものを明確にすることも含め、データ収集の方法や、統計的な手法も学んでいく。</p>								
授業計画 【第1回】	第1回：テーマの発表と質疑応答（1）								
授業計画 【第2回】	第2回：テーマの発表と質疑応答（2）								
授業計画 【第3回】	第3回：研究テーマに関する文献検索								
授業計画 【第4回】	第4回：文献研究による成果の発表								
授業計画 【第5回】	第5回：研究仮説の検討（1）								
授業計画 【第6回】	第6回：研究仮説の検討（2）								
授業計画 【第7回】	第7回：事例や文献の引用も含め、検証までの展開の検討（1）								
授業計画 【第8回】	第8回：事例や文献の引用も含め、検証までの展開の検討（2）								
授業計画 【第9回】	第9回：中間発表と質疑応答（1）								
授業計画 【第10回】	第10回：中間発表と質疑応答（2）								
授業計画 【第11回】	第11回：中間発表と質疑応答（3）								

授業計画 【第12回】	第12回：論文作成のための個別指導（1）
授業計画 【第13回】	第13回：論文作成のための個別指導（2）
授業計画 【第14回】	第14回：論文作成のための個別指導（3）
授業計画 【第15回】	第15回 研究発表
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究をもとに研究の方法について学ぶとともに、レジュメ作成、発表と討論の方法について学ぶ。 ・関係資料の収集と整理、調査と分析、レジュメ作成、発表及び討論を通し、自身の問題意識を深める。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)/2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)/3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外の学修 【予習】	[予習]毎回の課題提示に対して、事例や関係資料を収集し、課題に対する自分なりの見解や疑問点等をレポートを作成し、整理しておく。(1.5時間)
授業時間外の学修 【復習】	[復習]ゼミ内での意見交換や討論を通して学んだ、課題解決のための手順や論点等をレポートを作成し整理しておく。(1.5時間)
課題に対する フィードバック	課題に対する自分なりの見解や疑問点等を整理し、ゼミ内での意見交換や討論を通して、課題解決のための手順理解や論点整理を行う。
評価方法・基準	以下3項の他、意見交換や討論への参加態度から総合的に評価する。 ①要点整理のレポート：20% ②発表資料等の作成：60% ③課題レポート：20%
テキスト	使用しない。
参考書	適宜、紹介
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科	
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ						授業形態		
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	4年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	山田 裕司								
授業概要	<p>これまで学んできた教育学の専門的知識及び、子どもたちとの関わりを通して身につけ、感じたことを基に、教育学の知識をより深く学ぶ。特に、子どもと社会の関係や、教育的行為の成果の点検・評価に着目する。</p> <p>専門ゼミⅡでは、自分の関心ある教育学のテーマを絞り込み、各種資料や文献、先行研究の分析を通して、調査研究（実地調査）を実施する。最終的には、専攻研究等と自らの調査研究の分析結果を基に、関心あるテーマに関連した小論文を作成する。</p>								
関連する科目	子ども教育入門ゼミ、子ども教育プレゼミ、子ども教育専門ゼミⅠ、卒業研究								
授業の進め方 と方法	発表者が自分の関心あるテーマを選択し、そのテーマを取り巻く社会的環境や制度・政策等について事前に調べて、ゼミ当日に発表する。発表者以外は、発表者とは異なる視点からそのテーマを分析し、発表者と共にそのテーマについての知見を深める。								
授業計画 【第1回】	1. ゼミの目的と今後の方針についての確認 教育論文の作成にあたって、論文の作成方法や作成にあたっての情報収集の方法などについて学びます。								
授業計画 【第2回】	2. 各自の関心テーマの報告 教育論文の作成にあたって、論文の作成方法や作成にあたっての情報収集の方法などについて学びます。								
授業計画 【第3回】	3. 関心テーマに基づいた資料の紹介（1）先行研究 既存論文や資料のまとめ方や資料・データの読み取り方について学びます。								
授業計画 【第4回】	4. 関心テーマに基づいた資料の紹介（2）各種統計資料 既存論文や資料のまとめ方や資料・データの読み取り方について学びます。								
授業計画 【第5回】	5. 関心テーマに基づいた資料の紹介（3）各種答申 既存論文や資料のまとめ方や資料・データの読み取り方について学びます。								
授業計画 【第6回】	6. 関心テーマに基づいた先行研究の分析（1）教育学的視点から 既存論文や資料のまとめ方や資料・データの読み取り方について学びます。								
授業計画 【第7回】	7. 関心テーマに基づいた先行研究の分析（2）社会学的視点から 既存論文や資料のまとめ方や資料・データの読み取り方について学びます。								
授業計画 【第8回】	8. 関心テーマに基づいた先行研究の分析（3）政策科学的視点から 既存論文や資料のまとめ方や資料・データの読み取り方について学びます。								
授業計画 【第9回】	9. 関心テーマに基づいた調査研究（1）調査企画 質的・量的な調査研究の手法や分析方法について学びます。								
授業計画 【第10回】	10. 関心テーマに基づいた調査研究（2）調査の実施 質的・量的な調査研究の手法や分析方法について学びます。								
授業計画 【第11回】	11. 関心テーマに基づいた調査研究（3）調査結果の分析 質的・量的な調査研究の手法や分析方法について学びます。								

授業計画 【第12回】	12. 調査研究の成果について概要報告 質的・量的な調査研究の手法や分析方法について学びます。
授業計画 【第13回】	13. 個別指導（1）先行研究の分析結果について これまで調査研究してきた内容について個別指導をして、研究成果をまとめます。
授業計画 【第14回】	14. 個別指導（2）各種統計資料の分析結果について これまで調査研究してきた内容について個別指導をして、研究成果をまとめます。
授業計画 【第15回】	15. 個別指導（3）調査研究の分析結果について これまで調査研究してきた内容について個別指導をして、研究成果をまとめます。
授業の到達目標	1. 教育学・社会科学的視点から調査研究を行うことができるスキルを身につける。 2. 自ら設定した課題を解決するためのプロセスを明確にし、実行することができるスキルを身につける。 3. 先行研究、各種統計資料等を分析し、第三者に分かりやすく説明することができるスキルを身につける。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)
授業時間外の学修 【予習】	授業にて報告するレポートの作成（予習）、および発表後に明らかとなった課題の解決（復習） 保育・教育に関する新聞記事・ニュース等のとりまとめ
授業時間外の学修 【復習】	授業にて報告するレポートの作成（予習）、および発表後に明らかとなった課題の解決（復習） 保育・教育に関する新聞記事・ニュース等のとりまとめ
課題に対する フィードバック	発表課題に対して、適時指導・助言する。
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価します。 1) 学習意欲（授業中）-30点、 2) 先行研究等の分析及び調査研究の実施-40点、 3) 小論文作成-30点
テキスト	必要に応じて指示します。
参考書	必要に応じて指示します。
備考	